

大阪駅周辺地区大規模雨水処理施設整備事業計画（大阪市）
(第二回変更)

(様式1)

項目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>大阪駅周辺地区は、JR・地下鉄・大阪シティバス・阪急電車・阪神電車のターミナルや高層ビルが並ぶビジネス街、西日本最大の地下街と百貨店、ホテル、飲食店が集まる大規模なショッピング街を有し、周辺には高層住宅等の大規模な住居地域や商業地域が形成されており、西日本随一の都市機能の集中した地区となっている。また、特定都市再生緊急整備地域にも指定されている「うめきた地区」の開発など、さらなる発展に向けた取組が進められている地区である。平成25年に短時間の集中豪雨により浸水被害が発生しており、早急な浸水対策が求められている。</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨 　・本計画における対象降雨 : 77.5mm/hr 　・目標とする理由 : 平成 23 年 8 月に大阪管区気象台で記録した既往最大降雨 　77.5mm/hr 　・ハード整備による整備水準の目標:60mm/hr (概ね10年に1度の大雨)</p> <p>② 目標設定 i)生命の保護の観点 : 地下街への浸水を防止する。 ii)都市機能の確保の観点 : 商業・業務施設への床上浸水の概ね解消を目指す iii)個人財産の保護の観点 : 家屋への床上浸水を概ね解消を目指す iv)その他 : 特になし</p> <p>③ ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について i)ハード対策 　ハード対策の目標降雨である 60mm/hr の下水道施設計画を一部実施することにより、77.5mm/hr の降雨において床上浸水を概ね解消する。</p> <p> ii)ソフト対策及び自助 　下水道施設での水位観測をはじめとするソフト対策及び土のう・止水板等の設置をはじめとする自助により浸水被害を軽減する。 　また、当該地区には不特定多数が利用する地下街が存在し、雨水が浸入すると甚大な被害が生じる恐れがあることから、大阪市地下空間浸水対策協議会での議論を基に、ハザードマップにおける被害想定による浸水を防止するための止水板等の設置に関する助成を実施している。</p>

項目	内容・施策等			
内水ハザードマップ策定状況	・有(令和3年3月31日策定済み(想定最大規模降雨に更新))			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・雨水貯留施設の整備 貯留能力 10,700m ³
			下水道管理者以外	・特になし
	ソフト対策	下水道管理者	・内水ハザードマップの作成・公表 ・降雨情報の収集と提供(オーネクレーダ)	
			下水道管理者以外	・地下街等の管理者に対する浸水リスクの啓発
	自助	ハード対策		・止水板の設置(梅田地下街管理者)
		ソフト対策		—

年度計画(百万円)

名称	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
豊崎～茶屋町下水道幹線	29	110	3,456	2,768	1,045	7,408
計	29	110	3,456	2,768	1,045	7,408

項目	内容・施策等
整備効果	<事業評価の内容> 被害額：12,853百万円が削減される。 B/C : 1.697 経済的内部收益率：7.9%
放流先河川との調整状況	特になし
その他	—